

和歌山こころのたね 言の葉たび

高野山/天野・熊野・和歌の浦をめぐり、
旅の最後に“心に響いたもの”を言葉にする。

加點テーマ3 **ゲートウェイシティ形成**

申請者：つくも株式会社 代表取締役 野口千恵

事業の柱：「言の葉たび」

和歌山市を、広域周遊の“入口”であり“ゴール”にする

和歌山こころのたね 言の葉たび

高野山で心を見つめ、熊野でよみがえり、和歌の浦で心に響いたものを言葉にする。

入口

関西空港・なんば・和歌山市

旅の起点をつくる

周遊

高野山/天野・熊野・紀伊路

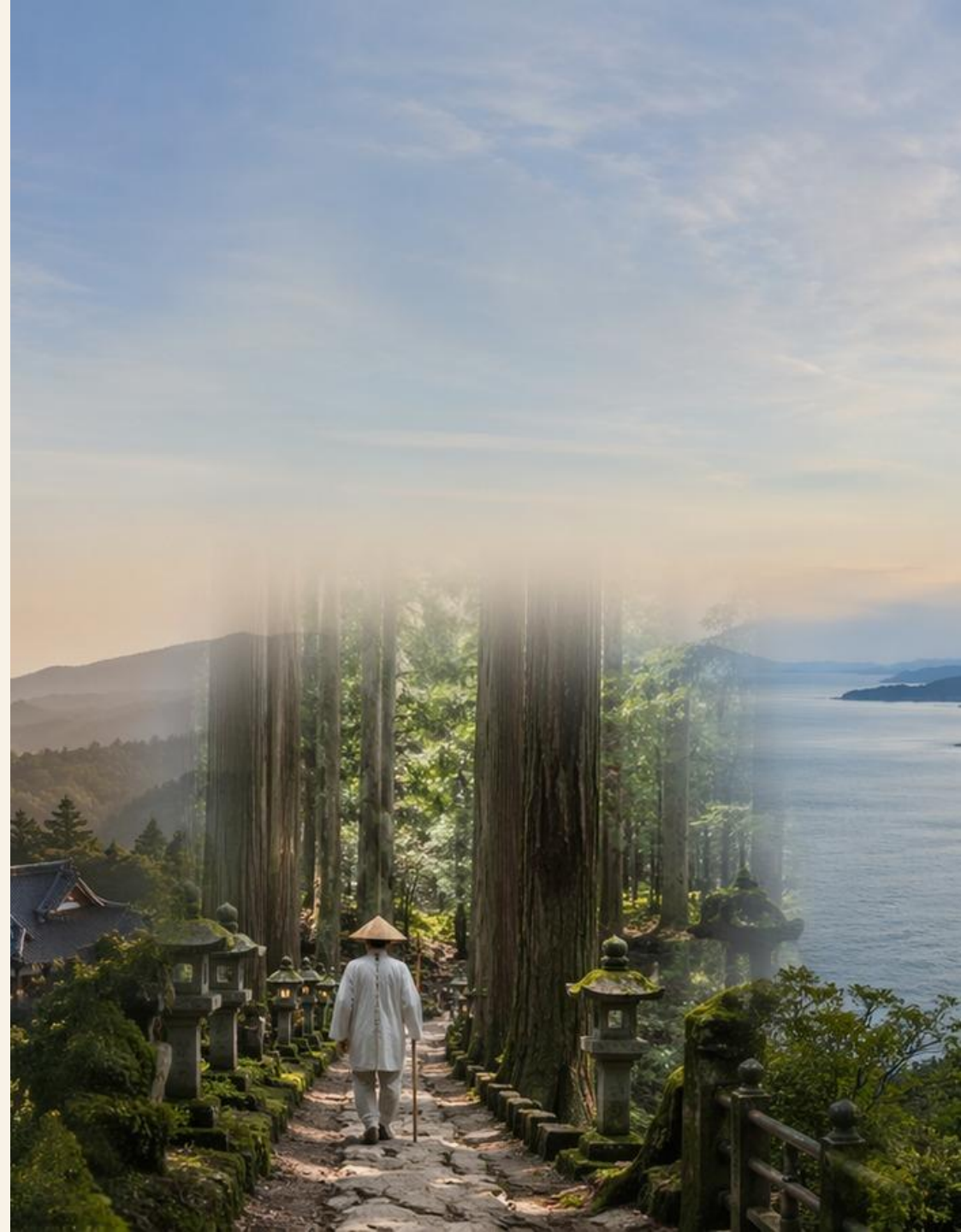
時間をかけて心をめぐる

ゴール

和歌山市・和歌の浦

言葉にして残す

“県内をめぐる旅”を、和歌の浦で完結させる設計。



地域課題：資源は豊か、周遊の物語が不足

点在する文化資源を、“和歌の浦へ向かう旅”として結び直す

課題 1

日帰りで終わしやすい
京阪神圏から近い一方、
夕方以降の滞在や宿泊への転換が課題
。

課題 2

資源が点で存在
高野山・熊野・和歌の浦
の魅力をつなぐ体験導線が不足。

機会

高付加価値化の余地
言葉・祈り・自然・食を組み合わせ
少人数の上質な旅へ。

解決の方向性：広域周遊 × 和歌の浦ゴール × 言の葉ふだ体験

体験設計：心を知り、よみがえり、言葉にする

高野山/天野・熊野・和歌の浦を、ひとつの物語にする



1日目 高野山/天野
本当の自分の心を知る
講話／宿坊／精進料理／瞑想／阿字観／護摩行



2日目 熊野
新しい自分としてよみがえる
熊野古道／参拝／言の葉ワーク／自然との対話



3日目 和歌の浦
心に響いたものを言葉にする
玉津島神社／言の葉ふだ／奉納

旅のゴールは「和歌の浦」。ここで、めぐった体験が“自分の言葉”として結ばれる。

商品設計：入口商品＋高付加価値コース

通常コースで裾野を広げ、食事付き特別コースで収益性をつくる

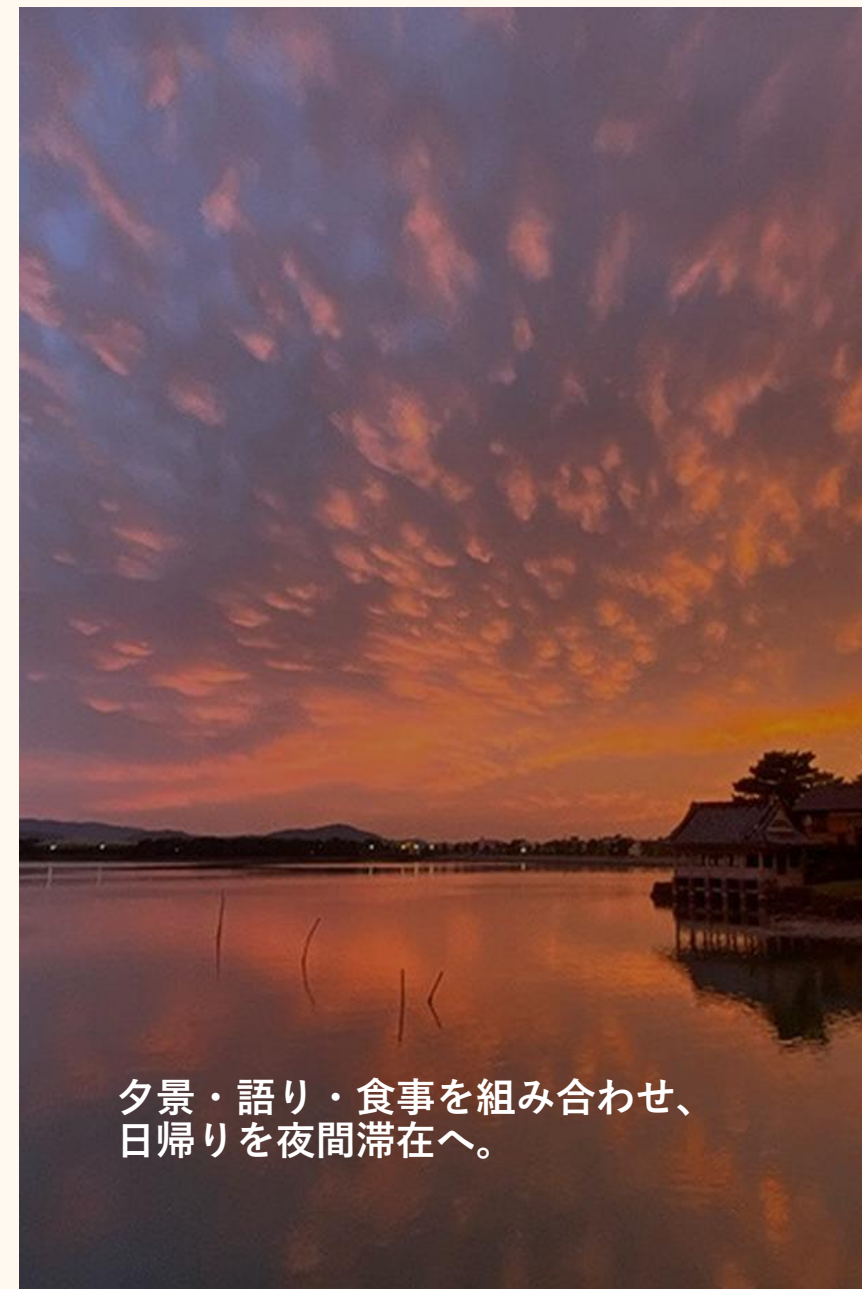
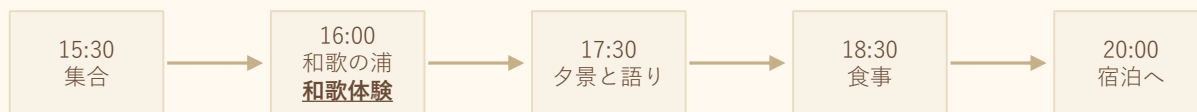
通常コース

まち歩き／和歌・景観解説／言の葉ふだ／冊子・マップ

食事付き特別コース

夕景鑑賞／特別解説／地域食材の食事／少人数対応

特別コース導線（例）



夕景・語り・食事を組み合わせ、
日帰りを夜間滞在へ。

広域連携：関係者と磨き上げ、商品化へ

- ①和歌山県内の文化・交通・観光関係者と連携し、実証から販売へ進める
- ②大阪府南部を中心とする関西エリアの拠点と連携を強化する
- ③関西空港から入出国するインバウンド客の和歌山市への誘導を強化する

【つくも株式会社】

- ・「旅行サービス手配業」登録
資格（総合旅行業務取扱管理者、旅行サービス手配業取扱管理者）取得済み。
- ・「旅程管理主任者（国内）」資格者 配置



高野山/天野



熊野



和歌の浦

連携先

観光協会・自治体
交通事業者
宿泊・飲食事業者
文化団体・教育機関
旅行会社・OTA

次年度以降

季節版・宿泊連携版・団体版へ
展開し、通年販売化を目指す。

「言の葉ふだ」

※登録商標申請済み

※実用新案登録出願済み

「すでに体験化・商品化が始まっている」

和歌の浦の魅力を深める体験「言の葉ふだ」

玉津島神社で「言の葉ふだを使って和歌文化体験」がスタート
万葉の言葉に加え、現代語も交え、初心者でも親しみやすい構成
学校や地域での活用も視野に入れた広がりが見られている

玉津島神社での和歌文化体験として案内

基本コースは60分、5～20名程度・要予約

札を選ぶ→並べる→短冊に書く→奉納して持ち帰る流れを提示
より深く体験する食事付きコース

ライターガイド（商標登録済）が日本遺産 絶景の宝庫 和歌の浦を案内

※和歌の浦日本遺産活用推進協議会事務局（事務局：和歌山県海草振興局）と連携

→ 既に「言の葉ふだ」は体験化・商品化が始まっており、
本補助事業ではこれを「言の葉たび」
の中核商品として磨き上げる。



和歌の浦で「言葉にする」体験を具体的な商品化済み

和歌山市で実装する商品設計

広域旅ブランドのゴール商品として、和歌山市内で販売・提供する体験を造成する。

通常コース

和歌の浦をめぐる入口商品

和歌の浦案内
言の葉ふだ体験
和歌づくり・短冊記入
玉津島神社参拝

食事付き特別コース

高付加価値・夜間滞在型

夕景鑑賞と語り
和歌づくりワーク
地域食材の特別食事
記念短冊・奉納体験

広域連携

旅行会社向けには「高野山/天野・熊野・和歌の浦」の三部構成で提案。

和歌山市単独でも販売可能な商品にして、入口と広域版の両方を持つ。

県内周遊の“最後の満足度”を和歌山市が担う。

加算テーマ3：ゲートウェイシティ形成への適合

本事業の考え方

県内各地をめぐる観光の最終到達地（ゴール）を、和歌山市・和歌の浦に置く。

広域旅の終点で、食・景観・祈り・言葉の体験を一体提供する。

「和歌山を周遊した最後に、和歌山市で心を言葉にする」という明確な物語をつくる。

和歌山市にもたらす効果

周遊客の最終消費を市内飲食・宿泊・土産・二次周遊へつなぐ。

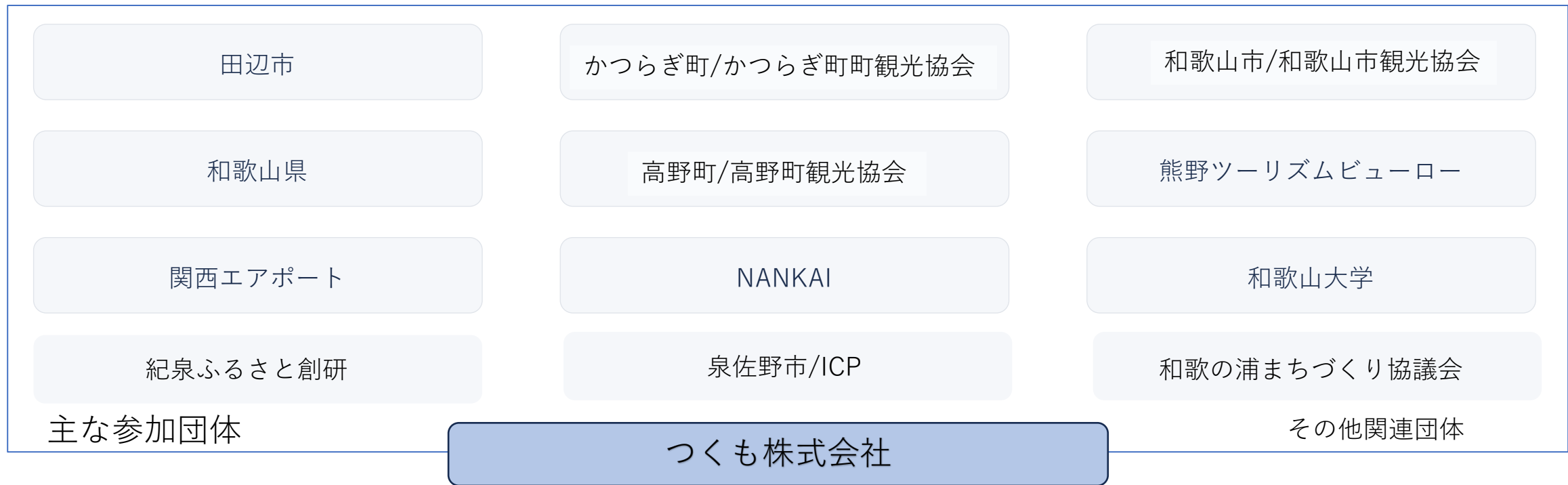
関西空港に近い都市機能を活かし、県内観光の玄関口・結節点としての印象を強める。

和歌山市を“和歌山旅の締めくくり”としてブランド化できる。

単発イベントではなく、和歌山市が広域観光のゴール機能を担うための実証・商品化事業として位置付ける。

「言の葉たび」 広域連携の土台はすでにある

「言の葉たび」 広域観光連携会議【取りまとめ：つくも株式会社】を開催
高野山/天野・熊野・和歌浦を「和歌」でつなぐ構想に前向きな評価が共有された。



「和歌」という切り口は、
和歌山らしさがあり有効との評価。

言の葉ふだにより参加ハードルを下げられるとの意見。

県内周遊・滞在時間延長への可能性が確認された。
今後は二次交通の整理と商品化実証が課題。

和歌山をめぐり、 和歌の浦でこころのたねを言葉にする。

「言の葉たび」は、和歌山市を広域周遊のゴールにし、
文化体験・食・宿泊へ接続する高付加価値観光コンテンツです。

ご清聴ありがとうございました

つくも株式会社